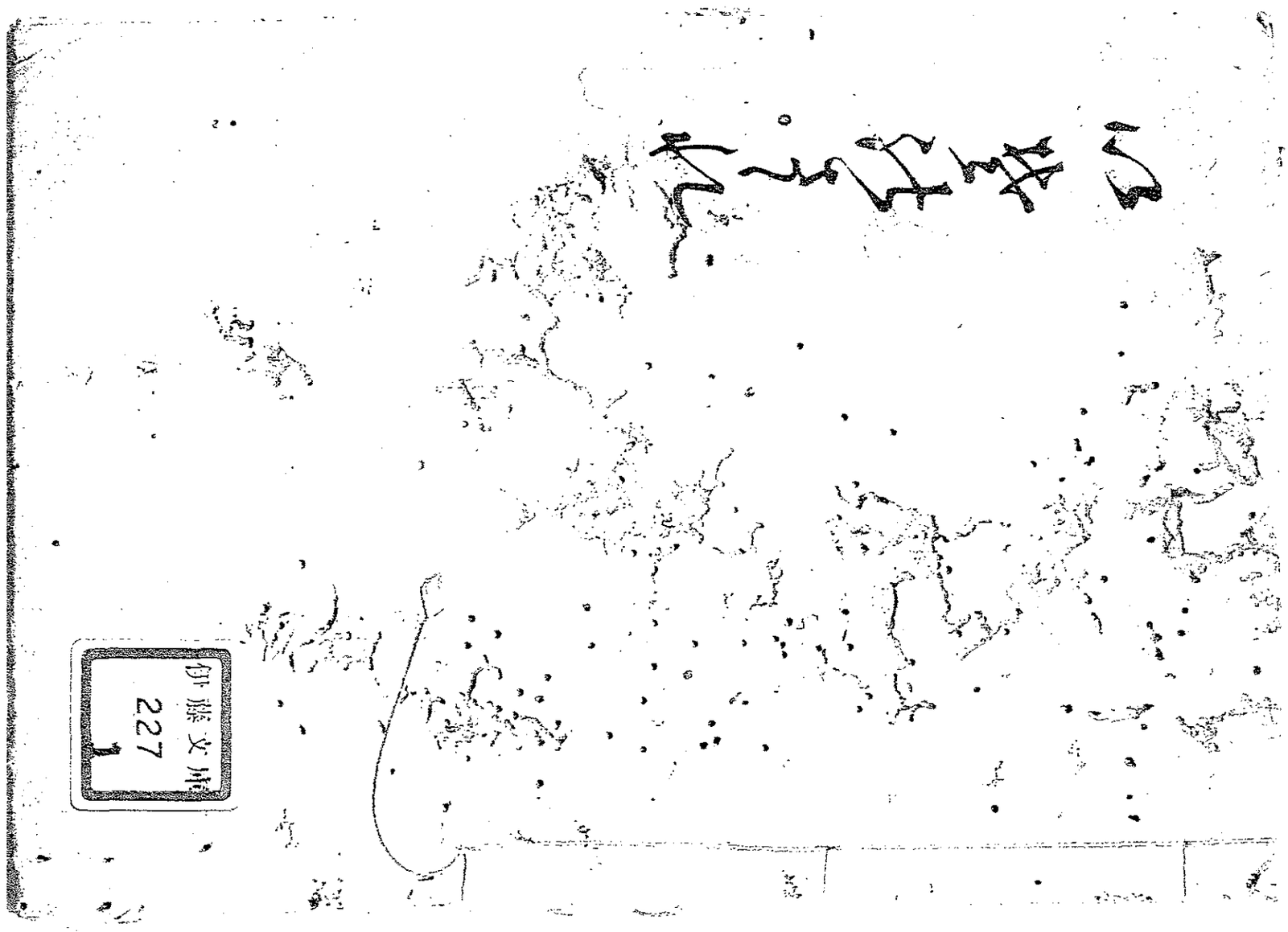
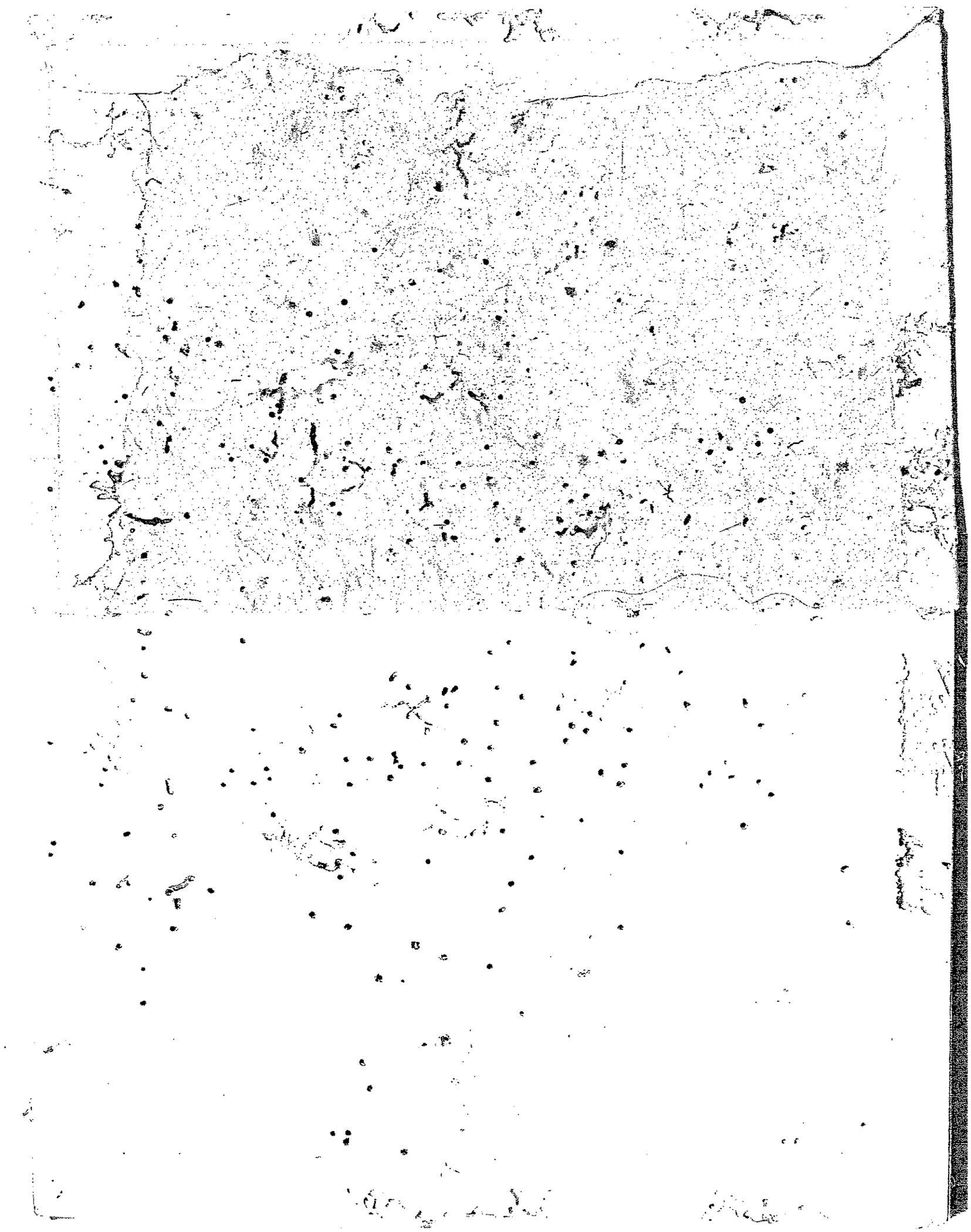


伊藤文庫
227
1



賀命乞

曦山暎

北勢菜名公浦菴編

御〻品

五世麦菴撰

東洋文庫
藏書印

北勢亲名呑浦菴 編

知命賀

噦山唄

獅子門十五世麦菴撰

華さと滑稽を著はしたもの
ゆゑ猿丸の詠ふ所もまた
の波聲雖鶴の五千年の齢
と壽きそ

麦菴

照月の清輝は雪花の千代までも
うらの霧をやけんちう杖 波聲
併始を日庵から詠も志つゝて 多應
表詩七 巻 吉 清雅
之枝乃流も毋よりひゝくうち 幽香
子孫の繁昌はいやうせる趣 雪柯

ウ

昼汐に裏ゟへしたる松の影く　思好
霧ふらのもる高き穂の筆　棲風
きり詠乃書媛しこうく計　崎濤
肥らしと猿の出るあひ　皎々
書紐を小口乃遠き釣り瓶　鍾斗
まつおるやゝ丹表の昔作　蒼嵩
おのふ中編笠載しのうき別れ　梅雪
永身おんふ笑ふき筆ち　玉鱗
采の名よ葉をみつむる雨凄く　琉芳
鏡乃借甚を金ゟよ孫き　指月

是庭をおとまほよと葉る柳　風水
ちら秋まんの蜂すゝめ郎まん球　可笑
三ヲ
其哉て袖猿書しに罪もなし　耕雲
阿漕らづし人ぞよ秋あて舟　亀道
世経るハ柱老の玉ものしおき之　柳子
さらいと流し鼓仕も永督も　萩寿
帰逢ふて楚いくせてる人之詠　三清
掃ふひもなふ雲乃さ所すり　貞心
はる清よ背をさる友らるに　志為
流れ材操に涼まる法案　三ふ

菊花の清韻の高き新分張　多津
拭ふて手出す稚を撫甲　志計
急如雷も庭照めける身の新　市調
秋を迎ふる家一塔既　茂世
数日乃出来も新たり出加減　一笑
もらふよりと陳を始とる　馳松
ひと時さに新世々知恵詠やされ　旭山
門出の時より雪の降ふり　舎従
咲まるる花すすきの里　李蹊
出不出捨ひ生きる子宝　華

仙子
春潮字斯の命を壽ぎて
静かなる年頃の春や昭の春　呼風水
菜の花桃の多ゆるき波聲
雪の年頃を待て
荷屋の数よりやられ菴の芸　苗川連　巡秀
年年に八重代添ひや玉椿　少年　雪柄
年来を経十万の花の友　少年　捷風
ことなりを菜つよ桃の香の菴　思妙
苗代の数を来とかるる処　玉鎌

五千歳を神ながらなる方柳、流芳
五千歳いとふ聲も振はしく百子多崎傳
いとやこの日生る百枝や門の松、梅宮
来るどしもしまつの若人とり芳恒連文狂
石のうへも拾ひ集せし月日貝少年皎く
老ぬれば情わすれて庭の柳、鍾半
若木さよ〻ゝ霞を友として、金従
吹さ延る東風や翠子代浦の春、養堂中上
五千歳を寄せる山の麓ゝ孔、三笑
来るどしも流れや五千歳川、旭山

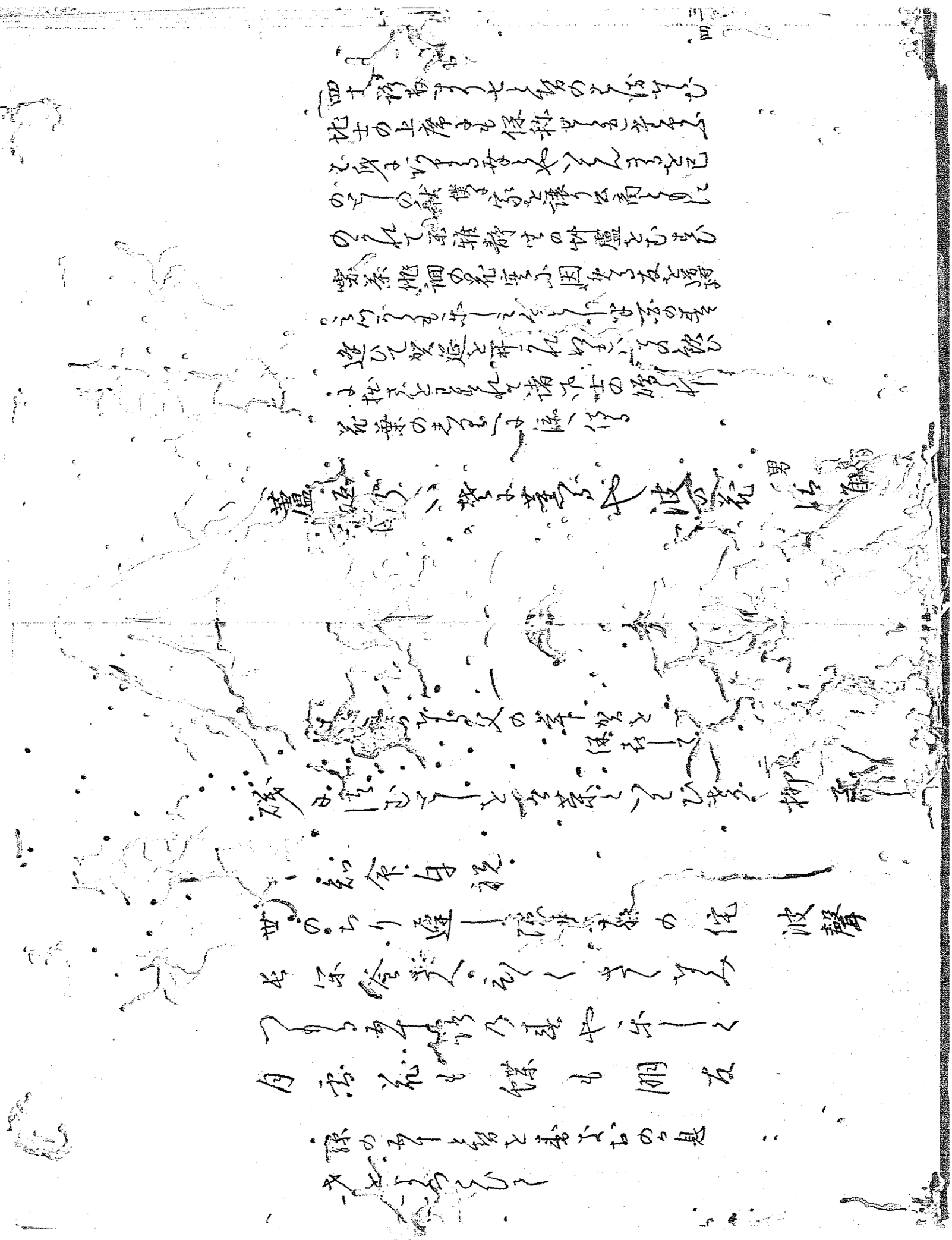
破参雅俗乃五千の契に人〻、大井田諏
泡茶の二道を羣もとこゝ
嘯こゝ一曲よりて拍ひ

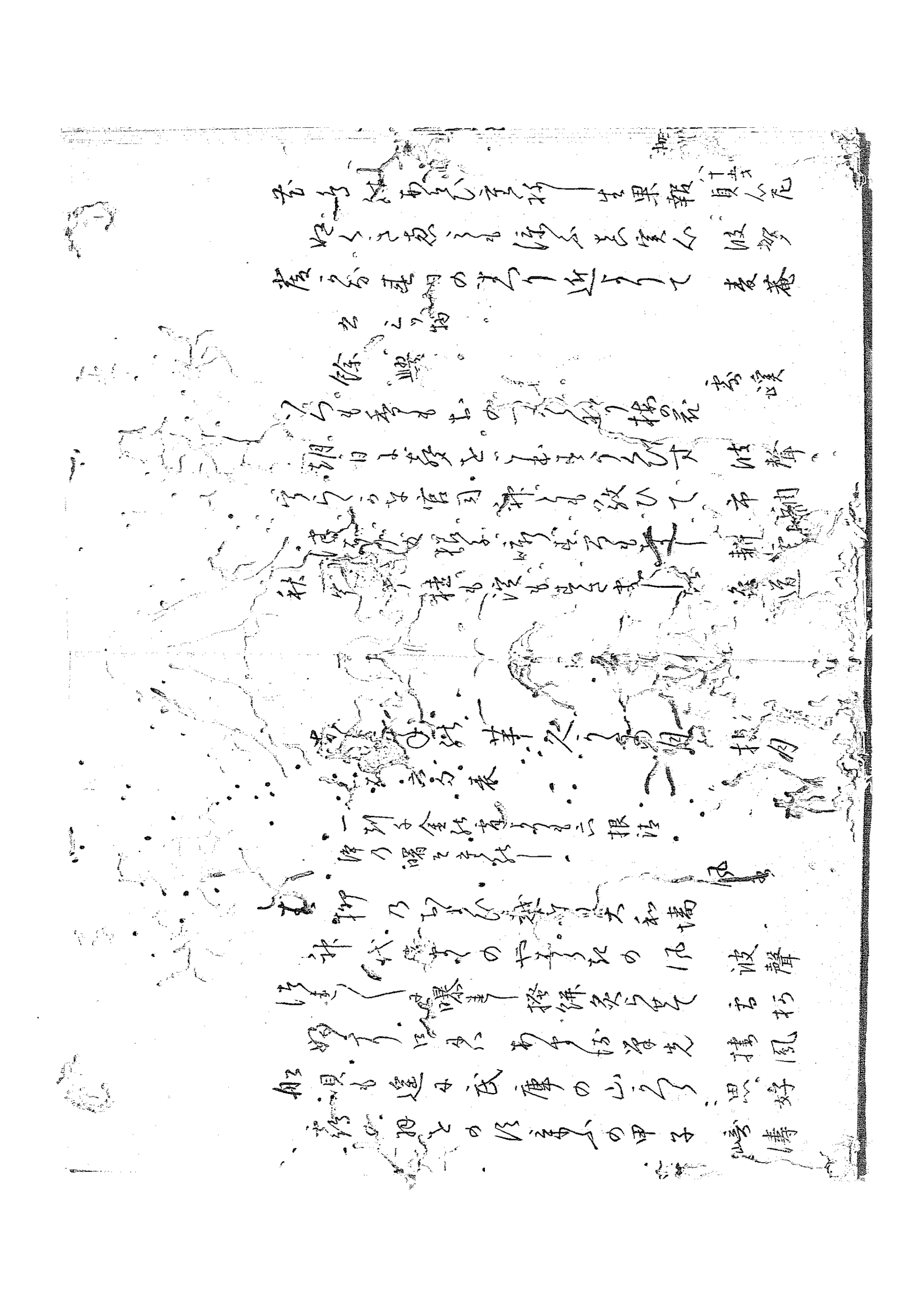
蓬莱仙人や大神変若も子代　多應

市東を去ゝ叔陳ゝ知命乃
書を逆ゝ叔父の健ゝ壹
新のしゝ姑射の山人ともゝ
仙ぎか

書意ゝ子代百の寿や若人とり　蕉蹊

文芸ゝ所司の命を崇り





世の[illegible]思[illegible]ぬ[illegible]云号ゆ 流芳
[illegible]師条[illegible]を[illegible]む久 伏 玉鱠
月の[illegible]さ[illegible]ら[illegible]萩よ垢[illegible] 幽香
[illegible]と[illegible]を[illegible]小男廉 梅亭

[illegible]

[illegible]ち[illegible]牛の[illegible]ま[illegible]れ 芦垣連 清雅
[illegible]の[illegible]の端[illegible]折[illegible]問斗[illegible]な 抑子
[illegible]乃[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible] 玉鱠 [illegible]
[illegible]頭[illegible]ふ[illegible]ま[illegible]家 皎く

[illegible]と[illegible]実[illegible]や[illegible]色[illegible] 蓼[illegible]
[illegible]巣[illegible]双[illegible]山[illegible]ま[illegible]薦[illegible]穴 留川連 持[illegible]
[illegible]抜乃[illegible]川[illegible]通 思好
[illegible]と[illegible]抜[illegible]し[illegible]松の[illegible] 青涛
[illegible]の[illegible]て[illegible]の[illegible]ひ 泉芳
[illegible]山[illegible]ま[illegible]る[illegible] 幽香
[illegible]乃[illegible]む[illegible]や[illegible]川 青柳
[illegible]ひ[illegible]て[illegible]日永[illegible] 玉鱠
[illegible]や[illegible]ひ[illegible]髮 梅亭
[illegible]ま[illegible]て[illegible]仇 [illegible]

やうく道明るき春の雨　大井口　亀道

鶯の初音やひとこと〻〻　拓自

動うるる雪日ぬくき柳哉　市調

春来れば挑る花御舟　如雲　耕雲

京の日や底ひなきうるる雪　吉浦菴　波聲

魚花て池静かなる水の秋　大井四　雪蹊

走る魚や学ぶの春の海　在濃　小應

文通

鈴や手蹄よる家の石　清雪者　朴堂

雨月に到深きる二日の礼　拓女

仮橋の牛めくやうや春の怖　北方　如流

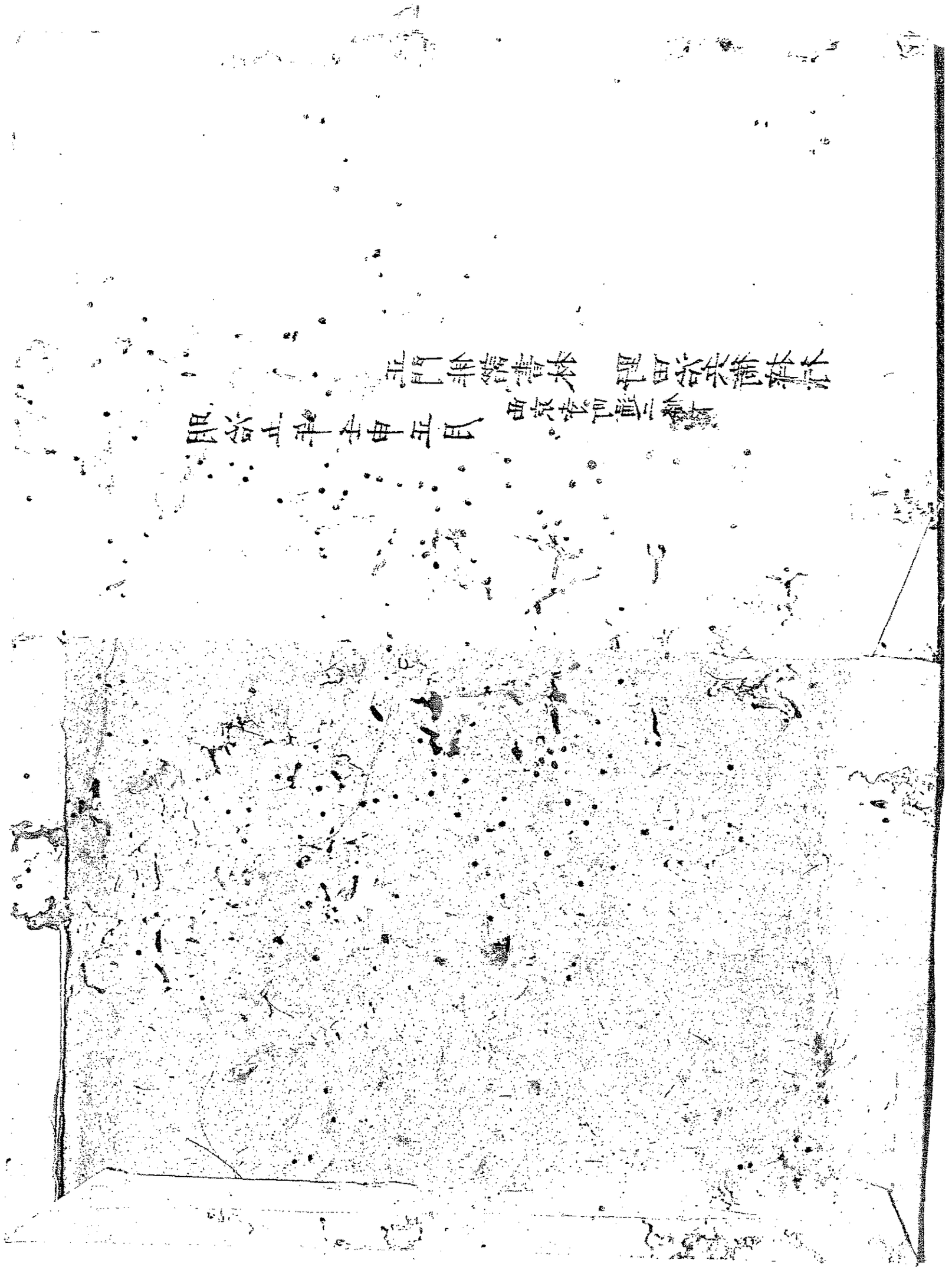
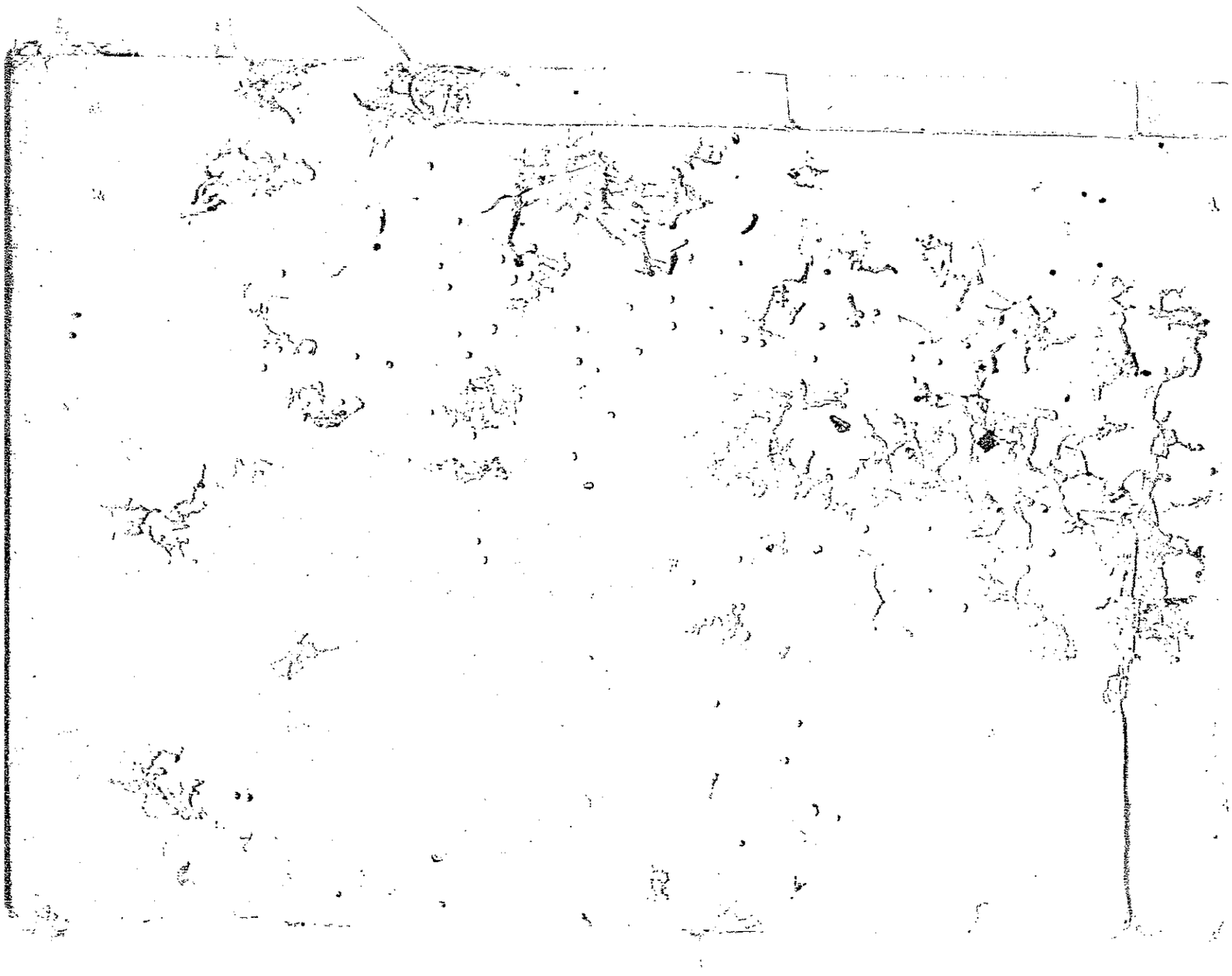
ぬくもりやたれ和語ある夏の法　西之丸　如雪

鶯の声つや布る社九花ひ　揮斐　雪月

近まるり春ぬる砂の岩橋　太垣　虚白

橋詰乃海鼠

走り移る餘寒こそ礼　春菴

867
55.11.7

明治五年壬申正月　西京寺町通二條下
正門俳諧書林　野田治兵衛梓行